

本日最終日はPM5:00までの開場となります。 4/23(水)~4/25(金)の3日間、ご来場ありがとうございました。

Tex-Promotion~「加工表現の拡がりを求めて」 さまざまな加工を学生たちに紹介

産地と学生のコラボレーション“JAPAN Tex-Promotion”の第2弾が、今回のJFW-JCで本格的にスタートしました。

昨年の「プリント」に代わって今回のテーマは「加工表現の拡がりを求めて」。協力企業が出品した加工技術が駆使されたテキスタイルが揃えられたブースでは、応募をめざす学生たちが驚きの表情で製品を手にしていました。

Tex-Promotionは、テキスタイルへの深い知識を持ち、クリエイティブなデザイン発想を持つ人材を輩出することを目的とした産学連携です。高度な産地技術と若い世代の発想により製作されたテキスタイルを用い、素材の持ち味を引き出したファッションを作成・展示する、というものです。

今回は、コラボレーションに協力する加工企業10社が、それぞれ特色のある加工品を、Tex-Promotion特設ブースに展示しました。このブースは、これから同プロモーションに応募する学生に向けて、加工技術を理解してもらうために設けられたものですが、訪れた学生たちは「想像を超える技術の高さに衝撃を受けた」「加工技術がテキスタイルの表情に欠かさないことを知った」などの反応を示していました。

また、23日に開かれた「加工表現の拡がりを求めて」と題するフォーラムでは、協力企業から(株)奥田染工場の奥田正美社長と小松精練(株)商品企画開発部の津田外己男部長がパネラーとなり、加工技術の現状とコラボレーションへのアドバイス、奥田社長は「学生の皆さんは気軽に来てください。遊びの感覚で新しいことをやりましょう」とコラボレーションを呼びかけていました。

さらに同ブースでは、静岡県別荘・コール天剪毛工業組合による別荘・コールテン剪毛(カッチング)実演が行われ、馴染みのない作業に多くの人々が入っていました。



企業紹介
(加工)



ウールでデニム感覚を表現した加工

ソートグループ No.E区-32

同社は、ウール素材を中心に、物理的・化学的な加工を施して仕上げる特殊加工技術をもつ染色整理の企業です。業界トップクラスの設備を導入し、高品質なモノづくりへの期待に応えています。その加工の1つが「デニムール」で、ウール布帛の後染め特殊加工によって、コットン・デニムのようにウール繊維で中白染色を実現しました。このほか代表的な加工としては、綿や綿／合繊の光沢を高めたり、ウール混にナチュラルな光沢を表現したりした「アクアクリン」シリーズなどがあります。



匠が生み出す新次元テキスタイル

小松精練(株) No.E区-08

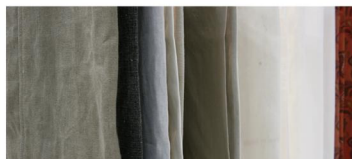
同社が開発した「ピンテージ織意(せんい)」では、さまざまな原糸や織物(編物)のもつ天然性を生かしながら、円熟度の高い「匠の染色加工技術」によって創り出した、合繊でも化繊でも綿でもない、まったく新しい質感のテキスタイルが誕生しました。その特徴は、天日干しのようにナチュラルでリラックス感のある表情、ふくらみ感とエアリーな風合い、コンパクトかつ新しいドライ感などです。



機能や風合い、多種多様な加工をオールマイティにこなす

サカイオーベックス(株) No.B区-06

薄地から中肉、厚地、プリントまで、合繊を中心にニーズにあった機能加工・感性的な加工など幅広い技術を駆使してテキスタイルを創造している福井の企業です。今回は、細番手のポリエステル・スラブ糸と天然繊維の組み合わせに後加工を加え、エアリーな軽さとナチュラル感をプラスしたシルフィ。そして金属的な質感や独特なめり感、上品で高級感のある光沢を表現したエスメタリオンに力を入れています。風合いのための二次加工はもちろん、快適、清潔、安心・安全、蓄光、芳香など様々な機能加工ができます。



さまざまな加工によるブラックのシリーズ

(株)タカワ染工 No.C区-18

綿やポリエステル／綿混など、肉厚な織物を中心に加工する染色企業です。プレミアムビーチ、パイオ加工、コーティング加工、樹脂加工などの組み合わせにより、さまざまな色と風合いが表現され、とくに染色では反応染料や硫化染料などを用い、独特の色味を出しています。さらに同社が得意としているのが「ブラック」のシリーズで、黒にはじまり多様な加工方法によって、バリエーション豊かなブラックが揃えられています。



藍染で差別化

小島染織工業(株) No.A区-09

一つには藍染め、一方は織りに工夫した生機をストックして、染め加工の依頼に応えるという染織工場です。今回は経糸に藍染めの綿を、緯糸に麻を用いてストライプを表現したものや、抜染で柄を表現したもの、生機では草木染めを主力に提案しています。藍染めなどはメンズカジュアルウェアからの引き合いも増えてきています。差別化したクラス感のあるカジュアルウェアに適しているのではないのでしょうか。



日本の伝統技法を洋装に転用

染色工房 いふう No.A区-10

キモノの中に息づいてきた日本の伝統的な染色技法を継承。これまでもマーブル染めや墨流し、絞り染めなどの技術を紹介してきましたが、今回はほかし染めを中心に、サンプルにはリサイクル品を製品染めに、展示しています。もともと京友禅に携ってきたが、これまで伝統的な技法が洋装に転用されることは少なかった。ほかし染めは比較的、地染めに転用しやすい技法。段差のない美しい染め技術を見て欲しい。伝統工芸の世界は高齢化が進んでいるため、染色に興味を持つ若い人たちが増えていくことを望んでいます。

国際化へ期待高まる 今回も欧米メゾンのバイヤー来場

JFW-JCは香港で開催されたインターストップ・アジア・エッセンシャルにブースを設けてプロモーション活動するなど、国際化に力を入れています。出展企業の皆さんからは早くも、来場増を期待する声が聞かれます。人数はまだ少ないですが、今回も初日から欧米メゾンのバイヤーが来ていたようです。

欧米向け輸出を伸ばしている(株)エイガールズは今回、ブースに同社のテキスタイルを採用した欧州メゾンの製品を展示しています。大多数を占める日本人バイヤー向けですが、同社のブースは海外バイヤーが来られても対応できる態勢で臨んでいるそうです。

瀧定大阪(株)のブースでは初日、午前中に限ると素材をピックアップしたバイヤーの半数が海外からの来場でした。同社は海外向けにJFW-JCのDMを積極的に発送しましたが、初日の来場は全く新規の海外バイヤーだったそうです。同社はここ数年、メゾンなど中・高級ゾーン向けのテキスタイル輸出を大

く伸ばしています。景気が急速に悪化した米国向けも、数%減と微減にとどまっており、認知度が高まったためと分析しています。

瀧定名古屋(株)の紳士服販売課のブースでは初日、3社の海外バイヤーが来場しました。欧米企業の香港にあるバイイングオフィスのスタッフで、瀧定グループの名前をニューヨークで知り、JFW-JC会場でもブースに寄ったということです。JFW-JCの出展者はレディス向けが多いこともあって、メンズの海外バイヤーは更に少ないと指摘していました。

(株)山崎は今回も、オーガニックコットンを前面に出して提案しています。JFW-JC会場では毎回、期間中に1~2社の海外バイヤーがブースに来るそうです。同社は香港に事務所があり、欧米向けに輸出しています。こうした実績もあって、海外バイヤーが来て大丈夫なように態勢を整えて、JFW-JCに出展しているとのことでした。



(株)エイガールズ



瀧定名古屋(株)



瀧定大阪(株)



(株)山崎

フォーラム「ジャパン・テキスタイル〜世界市場への挑戦〜」 生地輸出の体験を語る



フォーラム「ジャパン・テキスタイル〜世界市場への挑戦〜」が24日、フォーラム会場で行なわれました。スピーカーは(株)エイガールズの山下雅生社長、辰巳織布(株)の辰巳雅美社長、佐藤繊維(株)の佐藤正樹社長。コーディネーターは中小企業基盤整備機構の繊維産業支援室長の金井一弘氏。

輸出に挑戦した理由、苦労談、現状の取り組み、今後の戦略などを熱く語っていただきました。これから輸出に挑む企業へのメッセージでは、困難に直面しても乗り越えていく気概、やり切る気力の重要性が、皆さんが様に強調したポイントでした。

フォーラム終了後には、中小企業基盤整備機構が作成した「海外輸出ガイドブック-世界市場への挑戦-」と同DVDが配られました。

ブースでスムーズに意思疎通

メッセ・フランクフルト(香港)
トレードフェア・マネージャー
シンディ・チー氏



JFW-JCはよくまとまったオーガナイズで、来場者も多い。商談も活発ですね。商品が優れているだけでなく、プレゼンのレベルも高いと思います。

日本語が話せない私が独りでブースに行っても、シンブル・イングリッシュで問題無く、意思疎通ができます。ただ、シリアスなビジネスには不十分かもしれません。しかし、語学の堪能な方のいるブースも多くありました。

JFW-JCでは今回、香港で開催するインターストップ・アジアの紹介を行なっています。次回は10月8日から10日の日程です。

マスマーケットの中国に対して、香港はハイエンドのビジネスができます。欧米バイヤーも、中国へは中級からボリュームゾーンの商品を探すのがメインで、ハイエンド商品は香港で買い付けます。香港展への出展は日本のメーカーにとって有益です。

いしかわ産地 次回JFW-JCに大々的に出展

これまでも石川県としては、金沢で展示会を開いたり、年1回のペースで(株)繊維リソースいしかわとしての単独展を行ってきました。昨年は六本木でも展示会を開催しましたが、これまでの単独展をやめ、次回、10月のJFW-JC内にいしかわ産地としての出展を決定しました。JFW-JCの内容の充実度、知名度を認識しての決定でした。

行政の支援もあり、明確に合繊テキスタイルの産地であるいしかわの特色を打ち出していくために、一つの大きな島を作った展示コーナーを設けていきたいと考えています。レディス、メンズ、スポーツ関連の25~30社が集まり、多様な内容になると思います。地元産地の良さをPRすることは大切ですが、今後はファッション産業にたずさわる仕掛け作りが重要だと思います。谷本正憲・石川県知事も来訪される予定です。理解と支援に感謝しています。

(株)繊維リソースいしかわ
代表取締役
伊藤 靖彦氏

次回のJFWジャパン・クリエーションは

JFWジャパン・クリエーション2009 Autumn/Winter

開催日：2008年10月15日(水)・16日(木)・17日(金)

時 間：10:00~18:00(最終日のみ17:00)まで

会 場：東京ビッグサイト西1・2ホール



『T F T にちょっと寄り道』
jc(ジェシー)のちょっとイッ服
2008.4.25.発

ビッグサイトに隣接する東京ファッションタウンの2階は、飲食・物販施設などが充実しています。特に便利なのは、100円ショップですね。JFW-JCには出張で訪れる方も多いでしょうが、文房具の不足、あるいは下着や靴下を忘れたなんていうこともありますよね。文具はもとより衛生小物、下着、ネクタイといった衣料品、食品までを扱う100円ショップはありがたい存在です。飲食店ではマクドナルド、サブウェイ、フロントといった軽食からお寿司、とんかつ、讃岐うどん他20店舗もありました。地域限定の東京じゃがりこ(カレー味)、オリエンタルラジオのオリ焼きなんていう土産を買うこともできますよ。